

## 令和6年度 教科研修会Ⅱ 美術科 授業の様子

題 材 名	自分を表す		
授 業 学 級	3年D組 (41名)	授 業 者	田村 淳樹
教 科 の 学 び	色合いや描画材から感じ取る、感じたことを効果的に表現に生かす		

### 【本時の様子】

生徒たちは、複数の色合いや描画材で試し塗りをしながら、表したい自分をどのように着彩すればよいのか考えました。

導入場面では、「色鉛筆でシャボン玉を描いてみたけれど、表したいふわふわとした自分の感じが出ない」という生徒の前時の振り返りから、もっと着彩方法を考えたいという生徒の反応がありました。そこで、クレヨンと水彩絵の具で試し塗りをした教師の参考作品を提示しました。「クレヨンは濃くて図太さを感じる」、「水彩絵の具は柔らかい印象で上品さを感じる」という生徒たちの反応から、学習課題が据えられました。

展開場面では、色合いを変えて試し塗りをして見比べたり、異なる描画材で描き比べたりしながら友と感じ方の違いを確認し、表現に生かせる色合いや描画材を考える生徒の姿がありました。

終末の生徒の振り返りには、「過去の自分→クレヨン 感情の強さをクレヨンの濃さで表せる」などと、描画材から感じたことに加え、描く力加減による濃淡などの描き方の違いも表現に生かせると気付いている生徒の姿がありました。



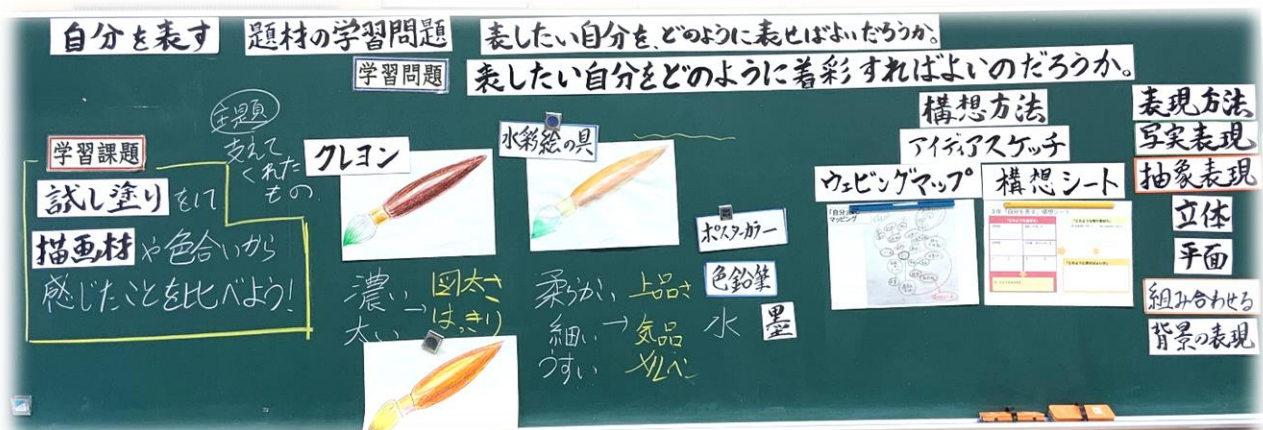
濃さを調整しながら、赤色と青色、黒色のクレヨンで描き試す生徒の姿



過去と現在の自分を表せるように、画面を左右に分けてクレヨンと色鉛筆で描き分けていた生徒の姿



機嫌が悪い雲を表せるように赤色で着彩したクレヨンの上に薄く黒色を重ねてみていた生徒の姿



本時の板書